

水稲新品種「ヒヨクモチ」について

岡田正憲・西山 寿・本村弘美・志村英二・甲斐俊二郎・和佐野喜久生
(九州農業試験場)

OKADA, M., NISHIYAMA, H., MOTOMURA, H., SHIMURA, E., KAI, S., and WASANO, K.
A New Variety of Paddy Rice Plant, "HIYOKUMOCHI"

かねて配付試作中の水稲西海糯 118号は昭和46年から佐賀・鹿児島県で奨励品種に採用され、通称名を「ヒヨクモチ」として普及に移されたので、その育成経過ならびに特性その他の概要をのべて参考に供したい。本品種の育成に直接従事したのは筆者等および藤井啓史・今井隆典であるが、関係各府県農業試験場・支場・分場・試験地の係官のご協力によるところが大きく、ここに深甚の謝意を表したい。

1. 来歴ならびに育成経過

ヒヨクモチは昭和38年、農林省九州農業試験場(筑後市)で、ホウヨクを母、祝糯を父として人工交配を行ない、その後も同場で世代促進を適用しながら、集団育種法により育成されたものである。昭和43年度F₂より「西海糯 118号」の系統名で関係府県に配付して、地方的適否が確かめられ、昭和46年度(F₁₁)に水稲農林糯216号として登録された。

2. 特性の概要

(1) 形態的特性 「フクサモチ」に比べた場合、稈長は約5cm、穂長もわずかに短い、穂数は多く、極短稈穂数型の糯品種である。稈は細く、まれに褐色の短芒をつけ、ふ先色は褐色で、ふ色は黄白である。粒着密度は中位で、脱粒性はやや易である。玄米は中形・中粒で乳白色を呈し、品質・食味ともに良好である。玄米千粒重はフクサモチ程度であるが、わずかに軽く、草状はシラヌイによく似ており、熟色はよい。

(2) 生態的特性 出穂・成熟期はフクサモチより1~2日早く、九州北半では晩生の早に属する。倒伏には短強稈であるためきわめて強く、フクサモチにまさる。白葉枯病のII型菌には黄玉程度に強く、フクサモチの最大の欠点を補っている。葉いもち病と紋枯病にはやや弱くてフクサモチ程度であるが、穂首いもち病にはやや強である。

3. 適地および奨励品種採用県

本品種は昭和43年から3カ年にわたって関係府県

に配付し、地方的適否が検討されたが、とくに佐賀県、鹿児島県ですぐれた成績をしめし、これら各県の平たん地帯、なかでも肥よく地に最も適している。

昭和46年度から佐賀県と鹿児島県で奨励品種に採用されたが、前者ではフクサモチ、後者では富田糯・サツマモチなどに代わるものとして期待されている。

第1表 ヒヨクモチの一般特性 (九州農試)

形 質	ヒヨクモチ		フクサモチ		備 南 糯	
	標肥	多肥	標肥	多肥	標肥	多肥
出穂期(月・日)	9・8	9・8	9・9	9・10	9・5	9・6
稈 長(cm)	67	69	72	72	90	95
穂 長(cm)	19.0	19.5	20.7	21.1	20.3	20.4
穂 数(本/m ²)	364	380	313	330	338	358
a 当玄米重(kg)	53.5	55.0	54.2	51.0	51.7	50.7
玄米千粒重(g)	22.3	22.5	23.6	23.0	22.7	22.6
玄米品質	2.7	3	3	4	5.3	4
早 晩 性	晩	生	晩	生	中	生
草 型	極短稈・穂数型	稀・短	稀・短	稀・短	中	間
芒の多少・長短	稀	稀	稀	稀	少	短
ふ 先 色	褐	褐	白	白	白	白
ふ 色	黄	白	黄	白	黄	色
脱 粒 性	や	や	極	易	中	弱
耐 倒 伏 性	極	強	極	強	中	弱
葉いもち耐病性	や	や	極	弱	弱	弱
穂首いもち耐病性	や	や	強	中	や	強
白葉枯耐病性	や	強	や	弱	中	中
紋 枯 耐 病 性	や	弱	や	弱	中	中

注) 食味は、ヒヨクモチ：良、フクサモチ：良、備南糯：中、調査年次は、標肥：昭43~45年の3カ年、多肥：昭41~45年の5カ年。

4. 栽培上の注意

熟期がかなり晩いので、中山間部・山麓上部への本品種の導入は不適である。フクサモチよりさらに短稈であるが、栽植密度、施肥法、施肥量などはフクサモチと同程度でよい。葉いもち病・萎縮病に対して弱点をもっているため、極端な早植をさけ、窒素成分の偏用や過多をさけるようにし、なるべく集団的な病虫害防除や管理をすることが望ましい。

5. 命名の由来

「肥沃」または「比翼連理」を意味し、肥沃地帯に最も適し、北部九州(佐賀)から南部九州(鹿児島)にかけて一体となって普及することに因む。